

「スズメ騒動」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

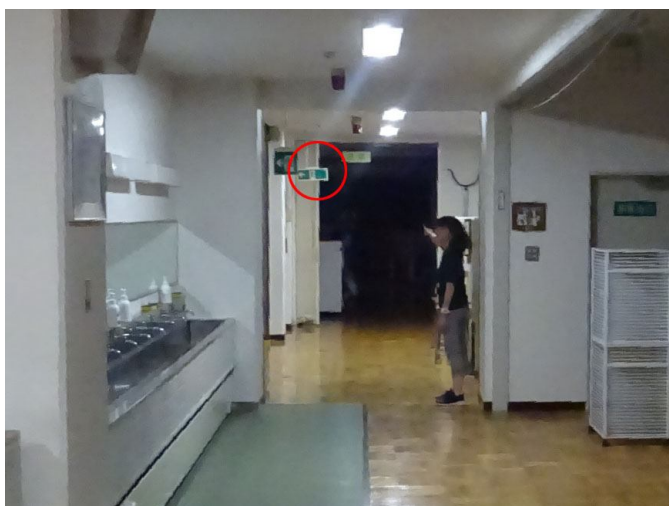
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

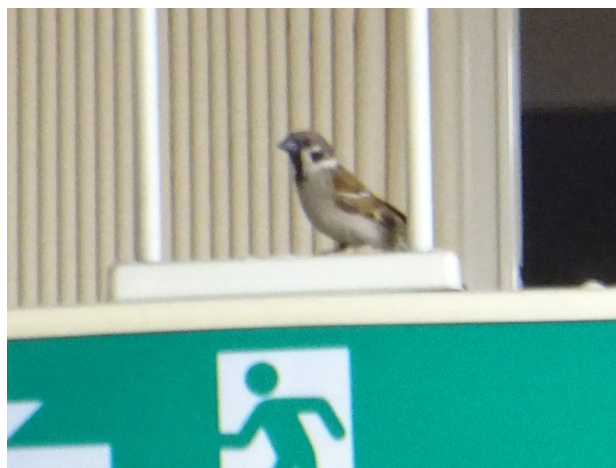
春先から初夏にかけて、野鳥の活動が活発になると、勢いあまった小鳥が、教室の窓から校舎内に飛び込んで来ることがある。さすがに子どもたちが在校している時間帯に入ってくることは少ない。大抵は朝の登校前か、夕方の下校後である。



これは以前、早朝に教室に迷い込んだ「メジロ」だ。さんざん逃げ回って疲れたのか、教室隅のワイヤーで休んでくれたので、かなり良い写真が撮れた。



今日も、学年会後の夕刻、1階の一年生の教室から理科準備室に内線電話があった。「スズメが入ってきました。どうしたらいいですか?」・・・実際、どうしようもないのだが、私はすぐにカメラを持って、「救護」に駆けつけた。すでにスズメは2階に移動して、非常口の表示の上で休んでいるところだった。



校舎の明るさに誘われて入ってきてしまったようだ。より明るいほうに移動しようと、様子を伺っている。かなりそばに寄っても逃げようとしない。



電気を消すと、あわててはばたき、今度は上学年棟へ、その後長距離を移動して、一番明るい職員室に入った。実はこれが好都合だった。



さんざん先生方の上空を飛び回ったあと、職員室前面の掲示板にとまった。私は「部屋の窓を全部開けて、電機を消してください」と先生方をお願いした。ほどなくスズメは窓から逃げていった。野鳥が校舎内に入ったら、密閉できる部屋に追い込んで、窓を開け、室内を暗くするのが一番良い方法とわかった。